

Y-PAC ジャーナルを始めます。

我々Y-PAC は写真を通してあれこれ考え、議論し、創造しようとする集団です。写真講評会は未だ一回しか行えていませんが、十数人のメンバーが写真を撮ってきてそれぞれ発表するというスタイルをとる以上、この頻度はしかたないと思っています。今の僕の考えでは、年に3、4回、季節ごとに行えればよいと思っています。しかし、建築学生としてみたとき、それとデザインスタジオくらいでは全く議論の量が足りないと思います。実はこのY-PACは、このままではほとんど議論を交わすという経験のない内に学生生活を終えていくのはマズい、という僕の焦りから生まれた部分があります。たまにデザスタの課題に関して意見を言い合うくらいでは、視野も狭くなり、建築を創る上で必要な語彙が極めて貧弱なまま卒業してしまうのではないのでしょうか。いや、それ以前に偏った知識しか持っていないのではひとりの人間としてつまらない、と思うのです。

前置きが長くなりました。今僕が提案したいことは、ジャーナルの発行です。といっても、別に論文を出版しようというわけではありません。Y-PAC 内で読んでもらうリレーコラムのようなものを書いていこうという企画です。テーマに関しては、写真はもちろん、メディア全般、先端技術、どこかに行ってきた感想など何でもいい（といってもある程度マジメに書いてほしいですが）ので、書いてください。できるだけ建築から離れている方が良いかもしれません。

基本的なフォーマットとしては、A4 用紙一、二枚以内で、字の大きさは 10pt とします。写真、図の挿入は自由です。必ずタイトルと執筆者の名前を書いてください。負担かもしれませんが 20 枚プリントアウトして用意してもらえるとありがたいです。（数が多めなのは会員以外や後輩に配る可能性があるからです）。これは月に二回くらいのペースで配布することを予定しています。

いまさら何故紙で、しかも内輪で書くだ、と思う人もいるかと思いますが、これには理由があります。ブログや Web では世界中に向けて発信しているようでいて、実はかなり読む人が限られている（有名人ならまだしも）こと、ディスプレイでは長文（しかもカたい文章）は読みにくい、ということです。匿名で発信することはそれに対する責任感が全くないこと、つまり読まれなくてもいい、適当に書けばいいということになります。仲間内でやると、内輪ネタになる危険はありますが、書く方も読む方もお互いがわかるという点で真剣に書かざるを得ないと思います。そもそも 15 人の友達に伝わらないのに一万人の知らない人に伝わるはずがありませんよね。

とは言っても堅苦しく考えないでください。文章が下手なのは皆同じです（いつも駄文を読ませてすみません）。文章の練習だと思って、議論の火種になるようなものを提供してもらえれば幸いです。